

平成28年度第2回北海道病院事業推進委員会 議 事 概 要

1 日時及び場所

平成28年8月23日（火）18:00～19:30

北海道立道民活動センター（かでる2・7）7階730研修室

2 出席者

（委 員）池田委員、谷口委員、土橋委員

（道 側）山中室長、三瓶室次長、佐藤参事、竹澤参事、福島医療参事、
道立病院室各主幹、主任技師、主査 ほか

1 議事概要

（1）開 会

・委員長代理について

佐古委員長が台風通過に伴う交通機関への影響により急遽欠席のため、北海道病院事業推進委員会条例第5条第4項の規定に基づき、あらかじめ委員長が指定していた池田委員を委員長代理とし、委員会の議事を進行。

（2）議 題

① 平成27年度 新・北海道病院事業改革プラン点検・評価書について

委員長代理から道の自己点検・評価を踏まえて各委員の意見を集約した委員会点検・評価について説明があり、これに対する質疑応答、意見交換が行われた。

② 平成28年度第1四半期 道立病院経営状況・取組実績について

事務局から標記について報告説明があった後、質疑応答が行われた。

2 委員の主な発言

（平成27年度 新・北海道病院事業改革プラン点検・評価書について）

- ・ 患者満足度調査のようなアンケートは、一般論として、内容の8割程度は定点観測で毎年同じことを聞き、2割についてはその年度毎の課題を設定。その結果については、改善に向け病院内部に委員会をもつこと、ある程度外部に発信する（HP等で公表）こと、定点観測して変化のわかるものは、病院内に表示することが必要。
- ・ 費用の縮減に関し、医療材料・薬品の在庫の問題として、在庫率を見ていくことと、預託品と購入物の比率を監視していく方法を構築したほうがよい。
- ・ 地域医療構想に関係しての意見だが、江差、羽幌の共通の問題点として、該当地区にどのくらい、その分野の患者が発生しているかを把握する必要がある。他の地区に流れている患者の状況を把握できると、その病院にどれくらいの器を用意すべきで、どこまで患者を呼び込めるのかの設定ができる。
- ・ 精神科病院に関し気になる点として、緑ヶ丘病院のスーパー救急以外の一般病棟の病床利用率が低調なこと。向陽ヶ丘病院は、新病院が6月からスタートして今後に期待したいが、元々の病床利用率が非常に低いので、今後努力いただきたい。

(平成28年度第1四半期 道立病院経営状況・取組実績について)

- 経営改善の取組み等について、どの病院も目標と実績と見ると個別にはかなり達成できているが、最終的な収益等見ると相当低いという乖離が見受けられる。
- 緑ヶ丘病院のデイケア通所件数の第1四半期実績が、小規模にしても少ないように見える。逆に訪問看護は、よくこれだけの数をやれていると思う。
- 患者数・収益などが毎年減っている病院は、地域の実態に合わせてどの体制が本当に必要なのか、また、それに対してどれだけの医師や看護師等が必要なのかを見直した方が良いと思う。
- 地域の人口減少によって入院患者が少なくなっているところもある。不採算な部門について、どれだけコスト負担がかかっているのかをある程度説明できる資料を少しずつ準備した方が良いのではないか。